

実践発表: 道徳科

他者との対話を通して、より良い生き方を見付ける生徒の育成 ～対話を促すツールの活用～

燕市立吉田中学校
大山 勇生 (H23年度)

学習指導要領における道徳科の目標によれば、「より良く生きるための基盤となる道徳性を養うため」には、「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」を進めていくことが求められている。つまり、生徒がこれまでの経験や自身の価値観だけで物事を考えるのではなく、他者との対話から様々な考えや価値観に触れ、物事を多面的・多角的に考えることがより良く生きることに繋がっていきと考えることができる。

しかし、対話を行うためには「主人公はどのような気持ちで・・・」と問うだけでは、考えていることや伝えたいことを十分に表現できない生徒が多い。そこで、対話を促すための手立てとしてツールを活用したいと考え、年間を通じて様々なツールを授業で活用し、その効果やより良い活用方法について実践を行った。今回の発表会では、教科リーダー育成講座での授業実践の紹介と私がこれまで使用してきたツールの中から他の方にもおすすめしたいツールとその活用方法を紹介したい。